

報告者公募型テーマセッション企画題目：Contemporary Family Research

オーガナイザー：佐々木尚之（大阪商業大学）

企画趣旨：

経済活動のグローバル化に伴い、さまざまな分野でボーダレス化が進んでいる。ヒト・モノ・カネの動きが国境を越えて活発になることにより、家族の在り方は大きく変容してきた。高等教育や先端研究の領域においても、とくに近年、国際化の推進が強調され始めている。日本家族社会学会も例外ではなく、国際セッションを積極的に開催し、海外の研究者を招聘してきた。こうした活動は、先進的な研究手法が日本に導入されるきっかけになったり、新たな国際比較研究の動因につながったりすることで、十分な効果を上げてきたと考えられる。しかしながら、これまでの国際化の流れはインバウンドに偏りがちであった。今後、学会のさらなる国際化を推し進めるためには、アウトバウンドな活動も同時に促進する必要がある。

本テーマセッションの目的は、（とくに若手の）学会員が日本の家族研究を海外に向けて発信できるよう、英語による口頭発表の機会を提供することにある。独自の視点で精力的に家族研究を行っている優秀な若手研究者は多数いるものの、経済的な理由および経験の少なさから海外で研究報告をするハードルは高い。日本人が日本人に向けて英語で報告することに批判的な意見もあると思われるが、内輪の研究会よりも正式な場で経験を積む意義は大きい。国際会議において、一方的な情報伝達で終わってしまう報告も散見されるが、異なる文化、言語、国籍を背景にもつ研究者が多様な視点から議論を交わすことこそが、今後の家族の変容を理解するうえで肝要である。流暢ではなくとも、真摯に質疑応答ができるよう、報告者間で協力しながらスキルアップを目指す。この企画の性質上、特定のテーマは設定しない。